

札幌皮膚病理研究所 NEWS



2004年3月号

セミナー開催のお知らせ

ただいま、参加お申し込み受付中です。
ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

皮膚病理講座 基礎編（東京）

専門医になるために必要な皮膚病理の知識や
専門医試験受験対策を含む
対象：皮膚科・病理研修医および専門医
2004年5月8日（土）13時～17時
9日（日）9時～16時
会場：日本教育会館（東京都千代田区）

皮膚病理講座 応用編（東京）

臨床をみて病理を考え、病理をみて臨床を考える
対象：皮膚科・病理科専門医および研修医指導医
2004年6月26日（土）13時～17時
27日（日）9時～16時
会場：日本教育会館（東京都千代田区）

皮膚病理指導医養成講座（年6回連続講座 東京） 2004年4月開講

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

6回連続受講の他、単発での受講も受け付けます

2004年 4月24日（土）：炎症性皮膚疾患1
7月 3日（土）：炎症性皮膚疾患2
8月21日（土）：炎症性皮膚疾患3 & 沈着症と
変性性疾患
10月23日（土）：腫瘍性皮膚疾患1
12月11日（土）：腫瘍性皮膚疾患2
2月 5日（土）：腫瘍性皮膚疾患3
いずれも9時～17時
会場：山王病院 山王ホール（東京都港区）

詳細はホームページをご覧ください

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所
〒001-0018

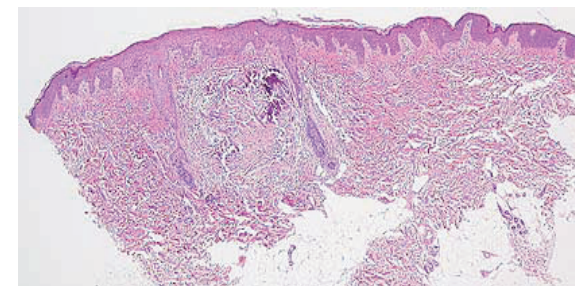
札幌市北区北18条西3丁目21-793
TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842
E-mail office@sapporo-dermpath.com
Website www.sapporo-dermpath.com

今月の症例

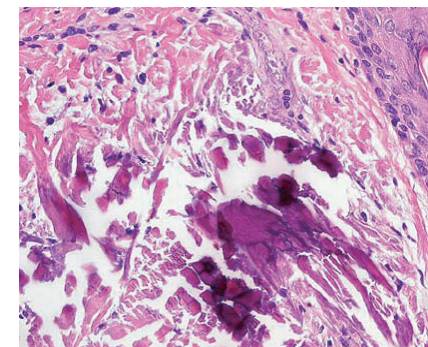


Calcinosis cutis

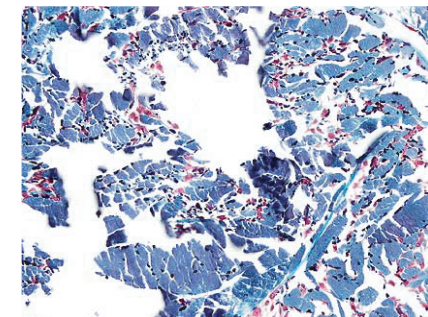
0才、女性
生検部位：右肘伸側
臨床診断：Calcinosis cutis
病理診断：Calcinosis cutis



真皮内に均一に好塩基性に染色される物質が認められる。



均一な好塩基性の結晶が見られる。また周囲の膠原線維は変性している。



同物質は Kossa 染色で黒褐色に染まり、カルシウム塩であることが証明された。

今月の研修生をご紹介します

石川貴美先生（山口大学） 中列
東川晋語さん（北海道大学医学部4年） 前列右
方波見謙一さん（同上） 前列左



ホームページに新しく掲載しております

研修生日記をご紹介します

「門前の小僧」

こんにちは。北海道大学医学部4年の東川晋語と申します。今年に入って1ヶ月程木村先生の朝のリーディングに参加させて頂いております。北大皮膚科の授業に木村先生が非常勤講師として出講された際、皮膚病理学に興味がある学生を研究所に招待してくれたのがきっかけで現在に至ります。

簡単に自己紹介します。米国West Virginia州立大学理学部化学科にて学士、修士号取得後に某大学歯学部（3年目で医学部編入学の為中退）を経由し、北海道大学医学部に学士編入学しました。歯学部時代に仕込まれた「人間の機能性、審美性を追求する魂」があるので、卒後は形成外科・美容外科を志望しています。臨床現場での問題解決の為には外科病理学と分子生物学は必須と考えますが、現在の医学部のスケジュールを鑑みると後者の追及は難しいので学部時代は病理学を中心に勉強することにしました。

皮膚病理研究所での研修の目標は「一体何が皮膚の中で起こっているのか？」を一枚の皮膚検体から疾患の枠を超えて理解できるようになることです。しかし学生の実力はたかが知れているので、現実的には「門前の小僧習わぬ経を読む」の如く木村先生のアリガタイ説明を毎日拝聴することで見た標本の所見をもっともらしく説明できるようになりたい、と考えています。できる限り長く通う予定なので末永くよろしくお願いします。

今日の皮膚病理診断

その⑥ 日本の皮膚病理診断のかかえる問題点

皮膚病理診断の技術や技能を習得するためには、医療の他の科や分野と同じように指導医のもとで一定期間の研修が必要だ。私が皮膚病理診断学の研修を受けたニューヨーク大医学部を例に、2001年度の米国の研修プログラムの現状をみてみよう。

皮膚科では3年間のレジデントプログラムに、1年目2週間、3年目2ヶ月間の皮膚病理部門での研修がある。病理科も、4年間のAnatomical Pathology（解剖病理）のレジデントプログラムに加え、2年目か4年目に1年間の皮膚病理部門での研修がある。

皮膚科や解剖病理の専門医になってから皮膚病理の専門研修を1年間受けると皮膚病理専門医になる資格ができ、専門医試験に合格して皮膚病理専門医が誕生する。

皮膚病理の専門研修では、皮膚科専門医は病理、病理専門医は皮膚科の研修をそれぞれ6ヶ月以上受けることが要求されている。この皮膚病理専門医を養成する研修プログラムを持つ施設は2000年の登録で全米に39ある。

一方、わが国の現状をみると、皮膚科あるいは病理科の研修指定病院で皮膚病理部門を持っているのは、全国に一つもない。皮膚科専門医や認定病理医になるためには5年間の研修期間が要求されるが、この間に皮膚病理を特別に研修するプログラムをもつ研修施設はない。さらに皮膚病理の専門医制度がないので皮膚病理の専門研修プログラムもない、というないない尽くしである。皮膚病理の研修制度や専門医制度が日本にないのは、必要がないからではなく、本来あるべきなのにな、と私は受け止めている。

2001年「北海道医療新聞掲載記事より」

「今日の皮膚病理診断」は今回をもちまして終了です。

新たに学会発表いたしました

2004,02,07 第357回日本皮膚科学会北海道地方会

「脂漏性角化症の組織学的特徴を伴ったBowen病7症例の臨床病理学的検討」

塩見達志、山口 淳、木村鉄宣（札幌皮膚病理研究所）

「Glandular peripheral nerve sheath tumorの1例」

山口 淳、塩見達志、木村鉄宣（札幌皮膚病理研究所）

臨床医の声

木村先生、毎日丁寧な報告有難うございます。先生とは戸田浄先生の会で、太田みどり先生より紹介され、皮膚病理をお願いすることになりました。私は東京のはずれ八王子で開業し早や17年。1日100～150人の患者さんを診察し、月に20～30人程の局麻の皮膚外科を行っています。昼休みが1時間あれば良しとしています。診療が終わるとDMもあり消耗しています。いったい先生のenergyの源はどこにあるのでしょうか。多分先生の資質も当然あるのですが、おそらく師であるDr. Ackermanの病理を広めるという使命感があるように思えます。

LeverでもFitzpatrickでもない病理、頑張って下さい。そういえば弘前大学皮膚科の後輩の宮内先生も知人の桐生美磨先生もDr. Ackermanの所に行きました。私はそろそろいつ引退するか考えていますが、先生にはますますお元気で頑張って下さい。先生には患者さんの命もかかっています。私が皮膚病理診断したわけではありませんが過去dermatofibromaと診断され、後にsarcomaであったり、nevusと診断され、後に腹部に転移性腫瘍が発見され、malignant melanomaであった苦い経験をしています。先生にはそういう事はないでしょうが御身体に気をつけて是非頑張って下さい。

植木皮膚科形成外科 植木 徹先生

今後のスケジュール

2004,2,27

症例検討；札幌医科大学皮膚科症例検討会
場 所；札幌医科大学

2004,2,28

勉強会；ダルマ会
場 所；札幌第一ホテル

2004,3,3

症例検討；旭川医科大学皮膚科症例検討会
場 所；旭川医科大学